

## 2. 本事業の実施地域及び工程

### (1) 北海道地域の事業実施場所

本事業の実施場所は、支笏湖の南側に位置し、樽前山の南側山麓になだらかに広がる森林地帯の一部である。樽前山から麓にかけては広く国有林が広がり、北海道森林管理局胆振東部森林管理署の管轄となっている。概ね標高 100m のラインを境に国有林と民有地で分かれており、民有地では森林、農地（おもに牧草地）、ゴルフ場などがパッチ状に広がっている（写真 2-1、写真 2-2）。

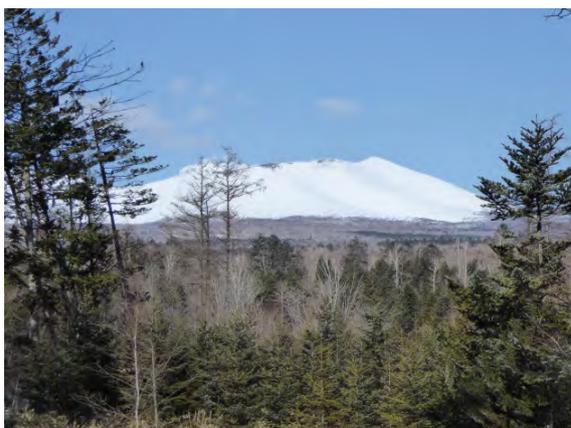


写真 2-1 樽前山麓の国有林の景観



写真 2-2 民有地の牧草地の例  
多くの場所で写真のように銃猟が  
禁止されている

国有林の管内は基本的に狩猟を行うことができる可猟区となっているが、一部の場所では森林施業や各種作業の関係上、林班単位で銃猟が規制されている（図 2-1）。事業の実施に際しては、管轄する胆振東部森林管理署から、今年度猟期の銃猟規制区域の情報を事前に入手し、それらをもとに、銃猟が規制されている林班を中心に、本事業で試行する簡易囲いわなや首用くりわなの設置場所の候補地を選定した。

しかし、10月2日に北海道を襲った暴風雨（爆弾低気圧）により、当該地域で大規模な風倒木被害が発生し、事業実施場所に通じる林道が約1か月間通行止めとなり、この間すべての調査や作業が中断した（写真 2-3）。

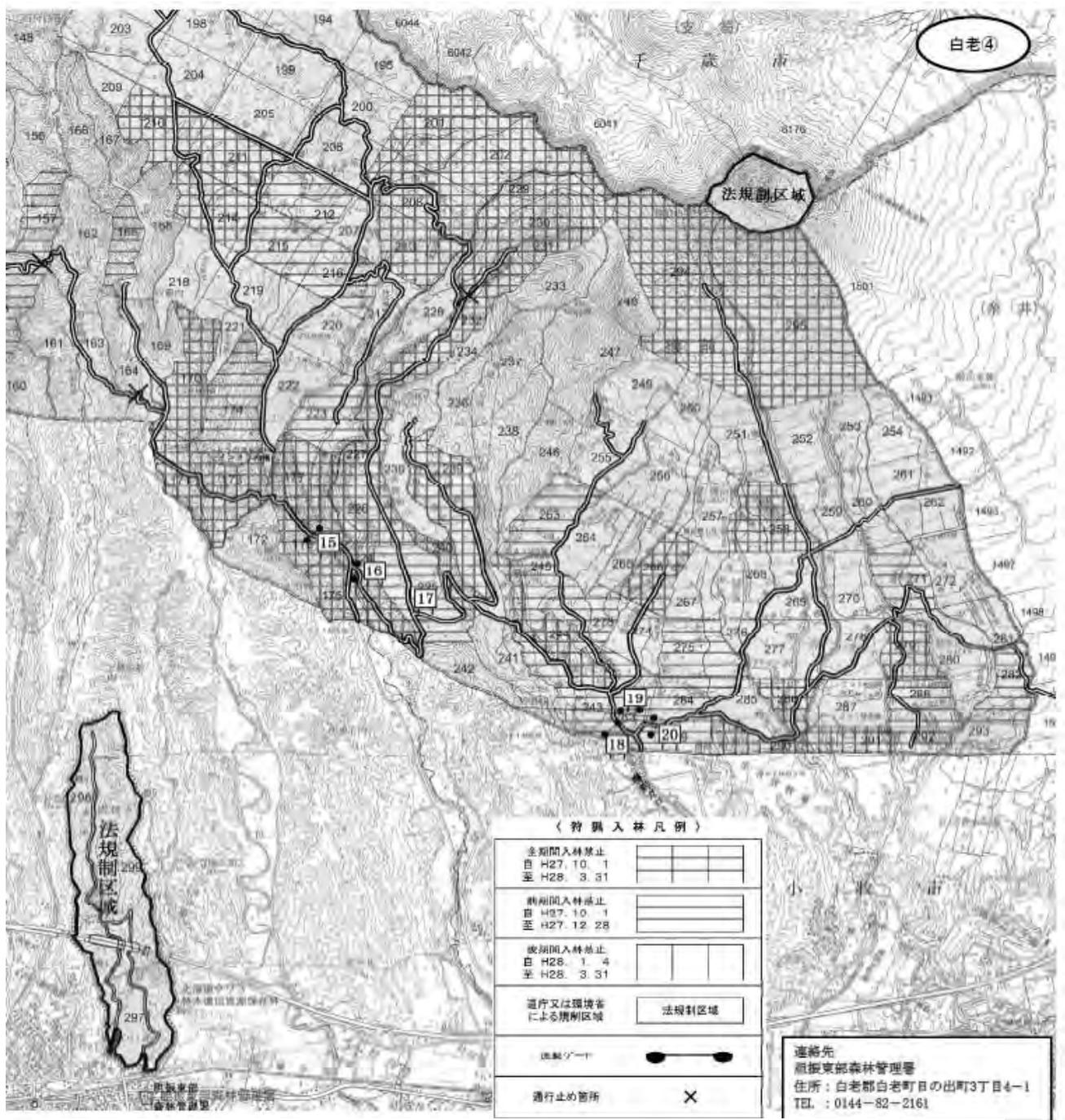


図 2-1 事業実施場所の狩猟の規制状況



写真 2-3 10月2日の暴風雨（爆弾低気圧）による風倒木発生状況

林道開通後、一部のわな設置場所の候補地を再選定し、11月下旬に全部で5か所の候補地を選定した。候補地の選定にあたっては、以下の点に留意した。

- ・周辺にシカの痕跡が多いこと
- ・林道へのアプローチがよく資材や捕獲個体の運搬が容易なこと
- ・わなの設置に適した平地があること、
- ・周辺の林道から直接視認できないこと（狩猟者から発見されにくいこと）

その上で、12月上旬からそれぞれの場所に、餌場を設置し、自動撮影カメラを併設してシカの出没状況の把握を行った。最終的には、5か所の候補地のうち、No.1について、狩猟者の出入りが多いこと、除雪をするのが難しいことから、候補地から外し、残る4か所で捕獲を実施することとした。さらに、それら候補地の中で、平坦な地形の広さや資材の運搬の容易さ等を考慮して、No.3 にワイヤーメッシュ式囲いわな、No.2 およびNo.5 に体重計測式囲いわなを設置することとし、No.4 を首用くりわなの試験地として運用することとした（図2-2）。

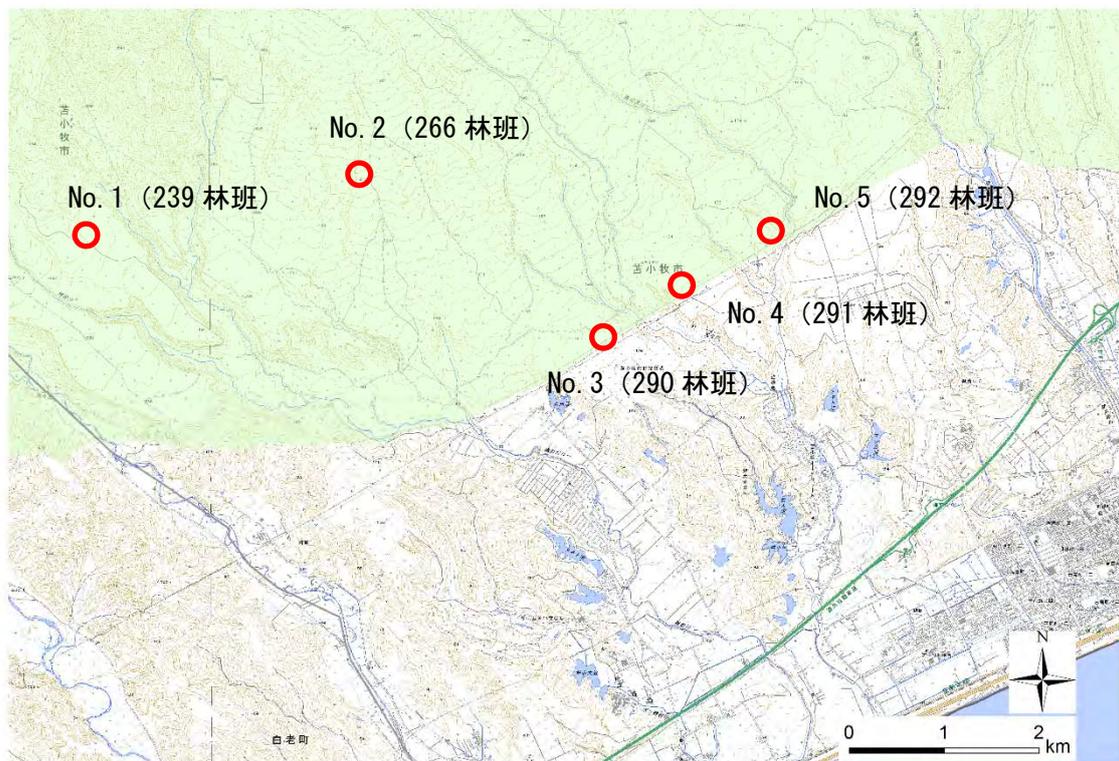


図 2-2 わなの設置候補地位置図



写真 2-5 No.1 調査地風景



写真 2-6 No.2 調査地風景



写真 2-7 No.3 調査地風景



写真 2-8 No.4 調査地風景



写真 2-9 No.5 調査地風景

## (2) 東北地域の事業実施場所

本事業において、事前に林野庁から指定があったモデル地域の範囲を図 2-3 に示した。

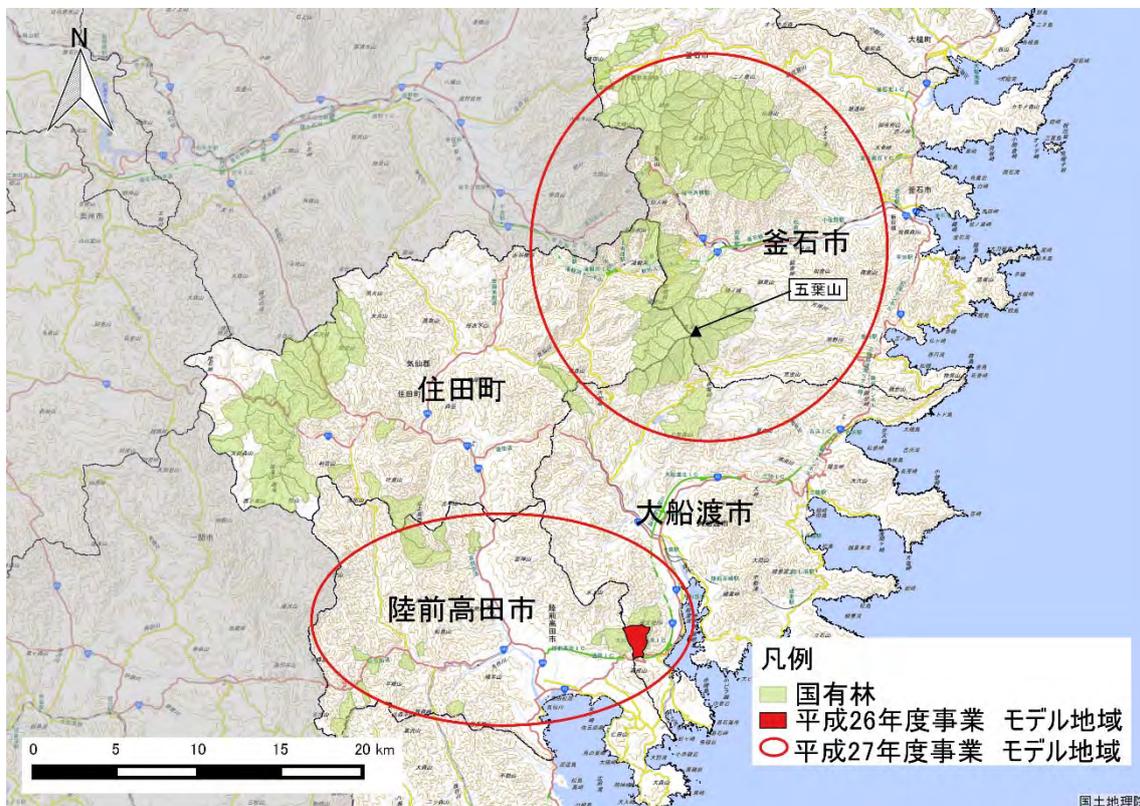


図 2-3 本事業における指定範囲と平成 26 年度事業のモデル地域

事業実施にあたり、指定範囲内の国有林について現地調査および関係者（三陸中部森林管理署、地元狩猟者）への聞き取りを実施し、今年度の実施項目である「GPS 首輪を用いた行動追跡調査（生体捕獲）」、「簡易囲いわなを用いた試験捕獲」、「首用くりわなの試行」それぞれについて、実施箇所の選定を行った（実施項目の詳細については「5. 東北地域における実施内容と手法」を参照）。選定にあたっては、表 2-1 に示した条件に留意した。また、最終的に第 1 回検討委員会において検討した。

その結果、「GPS 首輪を用いた行動追跡調査（生体捕獲）」は五葉山南側の畳石周辺および五葉山北側の釜石市洞泉地区～箱根峠で、「簡易囲いわなを用いた試験捕獲」は赤坂西風山国有林 21・22 林班で、「首用くりわなの試行」は小坪山国有林 46～49 林班でそれぞれ実施することが決定した（図 2-4）。なお、小坪山国有林の近隣国有林内では、東北森林管理局発注業務「平成 26 年度森林鳥獣被害対策技術高度化実証事業（五葉山周辺地域のニホンジカ生息状況・植生被害調査等）」において実施された自動撮影調査により、カモシカの生息が確認されている。

表 2-1 実施箇所の選定条件

実施項目	選定条件
GPS首輪による追跡調査	・岩手県内のシカ生息域拡大の拠点とされている五葉山周辺
簡易囲いわなを用いた試験捕獲	・シカの生息密度が高く、痕跡が多い ・積雪期にも車の進入が可能な場所の近くにわなの設置適地がある ・狩猟者による捕獲活動との住み分けが可能 (平成26年度事業における課題から)
首用くりわなの試行	・カモシカが生息している(錯誤捕獲の可能性検討のため)



図 2-4 事業実施地域位置図

捕獲の実証試験を実施した赤坂西風山国有林の概況について以下に述べる。

#### ① 国有林の概況

赤坂西風山国有林は五葉山南側の山裾に位置し、面積は約 555ha である。当該国有林の全域が五葉山県立自然公園の指定範囲に含まれており、第三種特別地域（特別地域の中では風致を維持する必要性が低い地域であり、通常の農林漁業活動については風致の維持に影響を及ぼすおそれが少ない地域）に区分されている。下流域には鷹生（たこう）ダムがあり、北側には大規模なメガソーラーが設置されている（平成 25 年 6 月着工、平成 27 年 8 月より運転、写真 2-10、2-11）。メガソーラーの設置場所は以前五葉牧野として牛の放牧に利用されていた。しかし、平成 23 年 3 月に発生した福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染の影響で牧草地としての利用が困難となり、その後、メガソーラー事業用地として利用されることとなって現在に至る。事故後、メガソーラーの着工前には昼間から牧草地にシカが出没する姿が確認されている（写真 2-12）



写真 2-10 赤坂西風山国有林の周辺環境（五葉山二合目より撮影）



写真 2-11 メガソーラー



写真 2-12 牧草地に出没するシカ  
(平成 25 年 3 月撮影)

周辺の鳥獣保護区等の位置を図 2-5 に示した。当該国有林内は平成 24 年度までは鳥獣保護区に指定されていたが、平成 25 年度に指定が解除されて現在は可猟区となっており、狩猟や有害鳥獣捕獲、個体数調整等の許可捕獲が実施されている。地元の狩猟者によれば、指定解除となった平成 25 年度に狩猟者が集中して周辺での捕獲圧が高まったことによって、シカの個体数は減少し、平成 26 年度には入猟者も減少したという。また、近隣にメガソーラーが設置されたことや五葉山がイヌワシの生息地であることから、発砲に気を遣うとの声も聞かれた。平成 26 年度の捕獲頭数では、周辺のメッシュと比較して少ない傾向にある(図 2-6)。このような状況から当該国有林内では平成 26 年度の課題であった、狩猟者による捕獲活動との住み分けがある程度可能であると判断した。

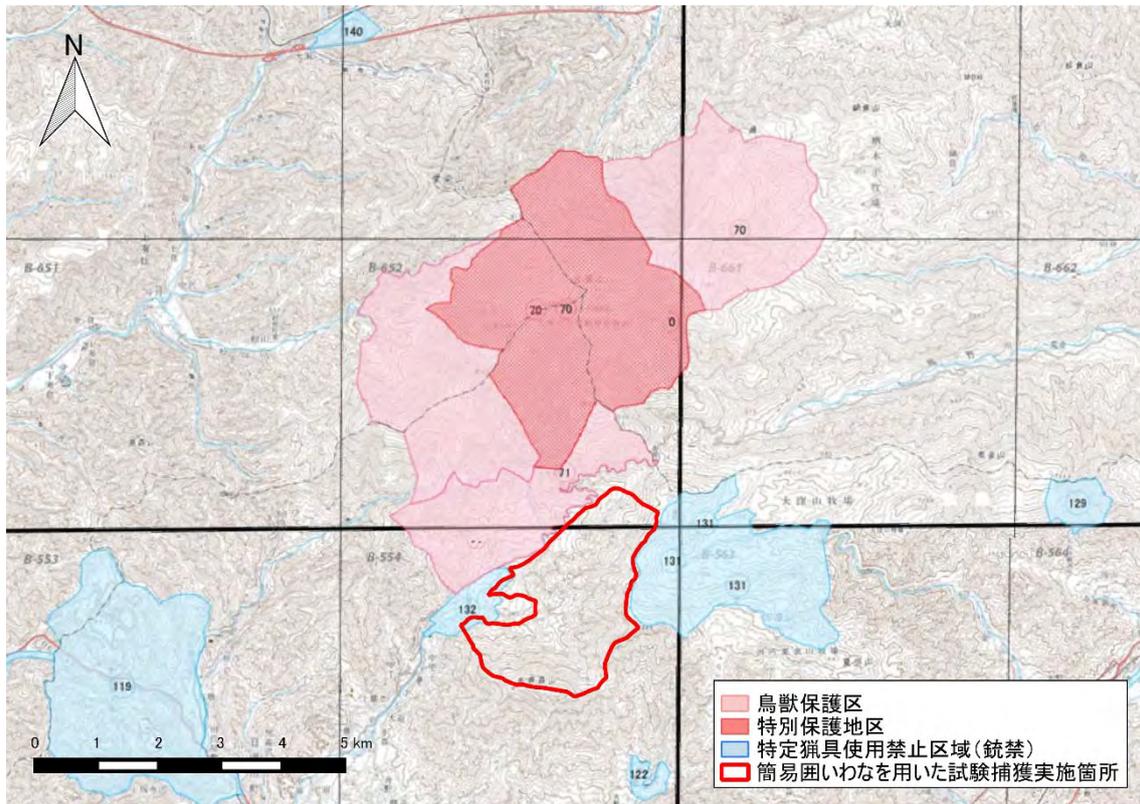


図 2-5 赤坂西風山国有林周辺の鳥獣保護区の位置

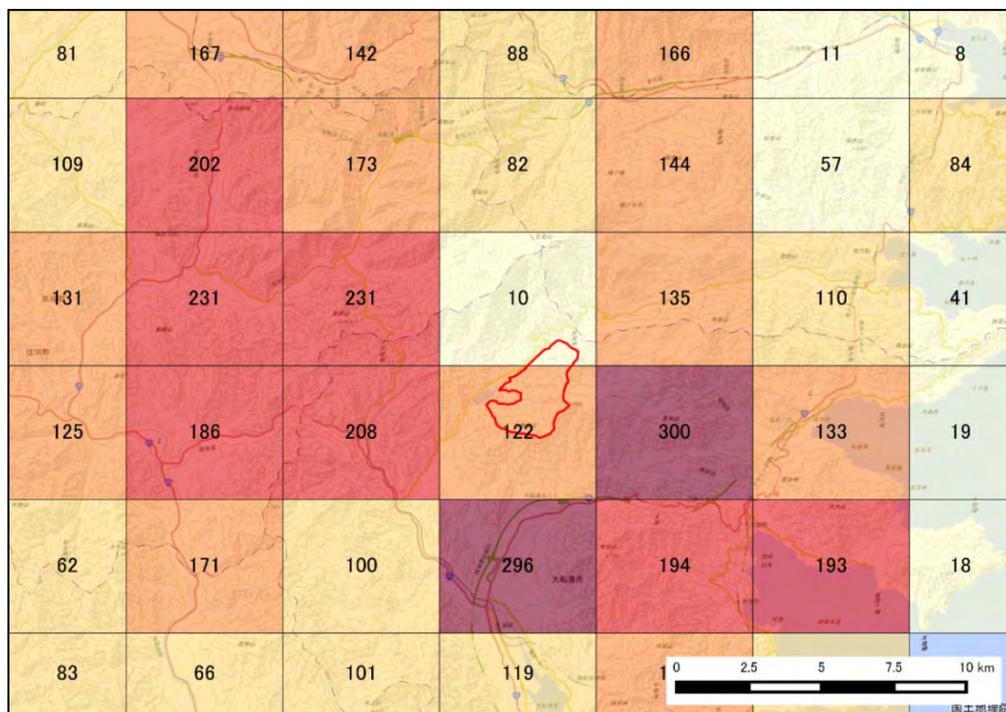


図 2-6 赤坂西風山国有林周辺での平成 26 年度の捕獲頭数（狩猟および許可捕獲の合計）

手県自然保護課提供のデータより作成

## ② 林内の概況

林内の林種は多くが広葉樹の天然林となっており（図 2-7、図 2-8、写真 2-13）、西側の一部にスギの人工林が見られる（写真 2-14）。機能類型は「森林と人との共生林（空間利用タイプ）」と「水土保持林（水源涵養タイプ）」が大部分を占める（図 2-9）。また、一部の林小班は「鷹生ブドウ沢水土保持モデル林」に設定されており、このモデル林は機能の維持向上を図るために、健全な大径木を含む多様な樹種や太さの樹で構成され、下層の草や、かん木等が豊かな森林を目標にするとされている（写真 2-15）。

林内にはシカの痕跡は多いが（写真 2-16）、剥皮被害はあまり見られない。分収林の一部には、シカ用の侵入防止策が設置されているが、柵の内外でササや幼齢木の生育状況に明らかな違いが確認でき、シカの食圧により下層植生が衰退していると判断される（写真 2-17）。

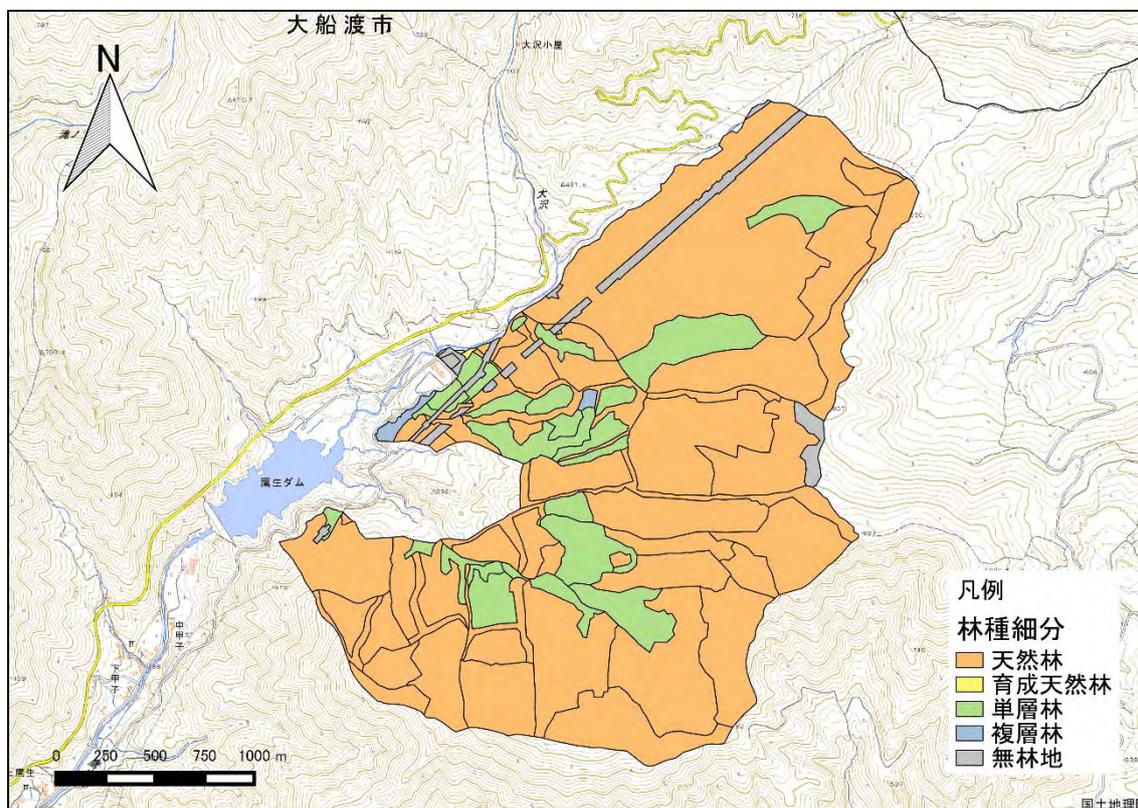


図 2-7 赤坂西風山国有林の林種（森林調査簿より作成）

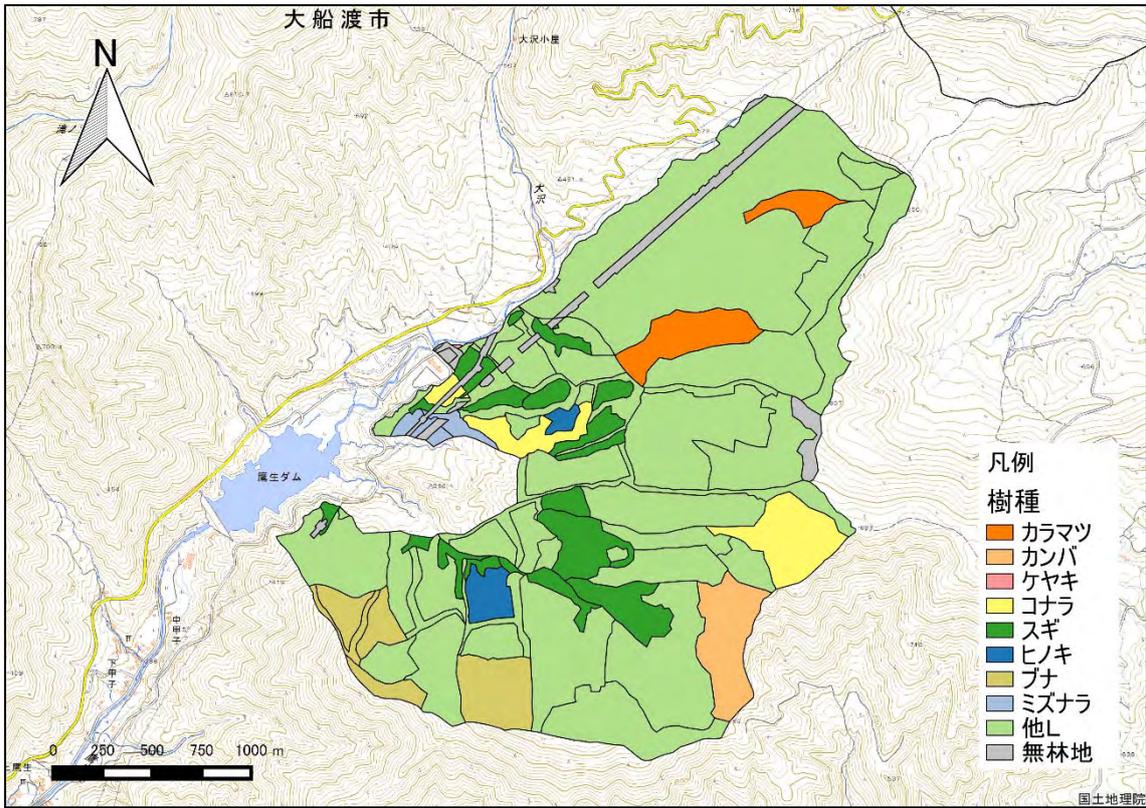


図 2-8 赤坂西風山国有林の樹種 (森林調査簿より作成)

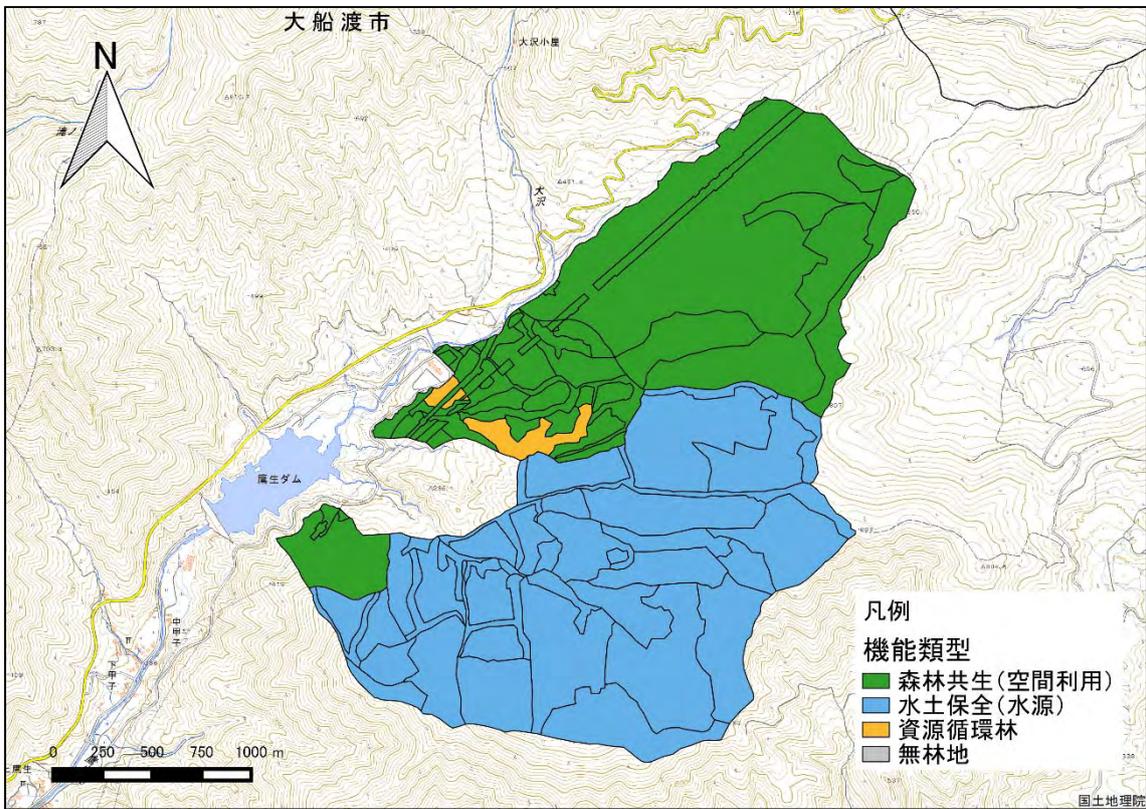


図 2-9 赤坂西風山国有林の機能類型 (森林調査簿より作成)



写真 2-13 広葉樹の天然林



写真 2-14 スギの人工林



写真 2-15 水士保全モデル林



写真 2-16 斜面についたシカ道



写真 2-17 分収林に設置された柵

(3) 事業全体の工程

北海道地域における実施工程を表 2-2 に示し、東北地域における実施工程を表 2-3 に示す。

表 2-2 北海道地域の実施工程（実績）

		8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
調査計画・体制整備																									
GPS首輪を用いた 行動追跡調査	生体捕獲																								
	追跡調査																								
簡易囲いわな	設置場所 の選定																								
	試験捕獲																								
首用くりわな	設置場所 の選定																								
	誘引試験																								
	捕獲試験																								
現地検討会																									
検討委員会・成果報告会																									

表 2-3 東北地域における実施工程（実績）

		8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
計画準備																									
関係機関との調整																									
GPS首輪	生体捕獲																								
	追跡調査																								
簡易囲いわな	設置場所 の選定																								
	試験捕獲																								
	自動撮影 調査																								
首用くりわな	設置場所 の選定																								
	試験																								
現地検討会																									
検討委員会・成果報告会																									